



式辞で伝えたこと。。。在校生の皆さんへ

令和4年度 第33回卒業式 式辞より

《前略》

さて、卒業生のみなさん。あなたがたは、入学当初から、朝日中学校の掲げる「未来で生きる人間力」を育むため、心を磨き、「昨日の自分」というライバルを超えようと、多くの逆境を乗り越えながらも、努力を積み重ねてきました。

3年生になってからのみなさんは、その蓄えてきた力を解き放つかのように、様々な場面で多くの人を魅了してくれました。夏の各部活動での輝かしい成果はもちろんのこと、数年ぶりに全校で開催することのできた体育祭や文化祭でも、見ている人たちすべてを引き付ける眩しい皆さんの姿が、今も印象に残っています。そんな皆さんもいよいよ今日、この朝日中学校を巣立つことになりました。



これから未来に向かって羽ばたかれるみなさんに、ぜひ今日伝えたいお話があります。

先日、棋士の羽生善治さんと日本の研究者でありメディアアーティストでもある落合陽一さんの対談を見る機会がありました。

落合さんが羽生さんに対して、「羽生さんにとって豊かな人生とは何ですか？」と質問され、そこで羽生さんが「豊かな人生とは“後悔がたくさんあること”です」と答えていて、その言葉に深く納得した自分がいました。

普通なら「後悔がない人生」の方が豊かに思えそうです。でもそれは言い換えると、「決断の少なかった人生」とも言えます。

プロの棋士は一手でも差し違えると、負けてしまいます。いつも試合の後に印象に残るのは、間違えてしまった一手だといいます。

天才と呼ばれる羽生さんでも、後悔した一手がたくさんあったそうです。でもそれは「挑戦した証」でもあります。

人生を振り返った時に、もし後悔がたくさんあれば、それは、それだけ決断のチャンスに立ったということです。

「後悔をなくそう」そう思うのではなく、「後悔を勲章にしよう」そう思ったら、これからの人生をもっと楽しめるのではないのでしょうか。

そのお二人の対談を聞いてから、ふっ…と気持ちが楽になり、挑戦に対してのハードルが、低くなった気がしました。

みなさんも、失敗を恐れず、多くのことにチャレンジしながら、これから先も己れを磨き、この朝日中学校で培った「人間力」をこれまで以上に高めながら、豊かな人生を歩んで行ってほしいと思います。

ここ、ふるさと朝日で学んだことを誇りとし、この素敵な仲間たちと過ごした喜びを胸に刻んで、これから先にある、輝かしい未来に向けて一歩ずつ歩んでいってください。みなさんの今後の活躍を祈念しています。

最後になりましたが、保護者の皆様、3年間、本校教育活動へのご理解とご支援をいただきましたことに、厚く御礼申し上げます。卒業生の前途に幸多かれと祈り、式辞といたします。

令和5年3月7日

朝日中学校長 丹羽浩也



教育委員会告示から学ぶ…生徒の皆さんへ

「梅が香に のっと日の出る 山路かな <松尾芭蕉>」という句読みから始まった教育長の告示。
皆さんにも紹介しますね。

さて、卒業生のみなさん、「**休眠打破**」という言葉を知っているでしょうか。

例えば、桜は春にきれいな花を咲かせますが、実は、花のつぼみのもととなる「花芽」は夏までに形成されて、そのあといったん休眠状態に入ります。そして、この「花芽」は冬の厳しい寒さにさらされることで休眠から覚め、その後の気温上昇と共に成長して開花に至ります。眠りから覚めて、**春に向けて成長していくためには、「冬の寒さ」がなければならないのです。「寒さが眠りを打ち破る」**のです。これを「休眠打破」といいます。そして、この「冬の寒さ」が不十分だと桜は不揃いになり、開花の時期が遅くなることがあります。つまり、「冬の寒さ」には、生命がもともと持っていた力を、眠っていた可能性を、目覚めさせる働きがあるともいえるのです。



人も同じではないでしょうか。みなさんの中学校生活は、新型コロナウイルス感染症の影響で、休校や分散登校、学校行事の中止や内容縮減、授業時の活動内容の制限、給食の黙食など、それまでの私たちが全く予想も



できなかった経験をする事となりました。そのような非日常と思える日々、様々な制約や困難な状況を、そして**今後も出会うであろう数々の苦難や悩みを「冬の寒さ」と例えるなら、その寒さがあるからこそ、みなさんは、成長できるのです。きれいな花を咲かせることができるのです。**

「休眠打破」。苦しい時期やつらい時期こそ自分が大きく成長するチャンスとして、これからも困難から逃げず、諦めずに前を向いて歩き続け、ぜひ自分自身の素敵な花を咲かせてください。

最後になりますが、みなさんの前に広がる未来で、ここ朝日中学校で培った人間力を礎に、更なる成長を遂げることをご祈念申し上げまして、朝日町教育委員会の告辞といたします。

令和五年三月七日
朝日町教育委員会
教育長 坂口 喜久夫

答辞より…

昨年度に続き、今回も在校生の参列のない卒業式。でも、程よい緊張感の中、粛々と式が進行し、フィナーレを飾る答辞と合唱。。。感度の中、式が締めくくられました。なかなか文字からは、臨場感が伝わらないのが残念ですが、卒業生の答辞から一部を抜粋して紹介しますね。

～前略～ いよいよ旅立ちの時が近づいてきました。三年間長い時間を共に過ごしてきた卒業生のみんな。いつも隣に友達がいるのが当たり前の毎日。沢山笑って、時にはけんかして、互いに支え合ってきました。多くの制限や我慢がある中でも、みんながいてくれたからこそ毎日が楽しかった。いつもそばにいた仲間との別れはとても辛く、寂しいものです。しかし、**みんなと過ごしたかけがえのない日々は、いつまでも心の中で輝き続けます。**今まで本当に、本当にありがとう。

今日私たち163名は、この輝かしい思い出を胸に、この朝日中学校を卒業します。これから私たちはそれぞれの道へ進みます。心配なこと、不安なことがあるかもしれませんが、私たちなら大丈夫です。だってこんなにも素晴らしい経験を積んできたのですから。**ゴールは終わりではありません。新たなスタートです。**新たな希望と夢を胸に、私たちは朝日中学校から大きく羽ばたきます。最後になりましたが、朝日中学校のますますのご発展を心より祈念して、答辞といたします。

中学校生活3年間の想いがいっぱい詰まった答辞でした。卒業生たちが身につけた**「未来で生きる人間力」**は、これから先の人生にとって**大きな財産**となっていくことでしょう。仲間とともに過ごした月日はかけがえのないものです。そして間違いなくこれからのみなさんにとっての**忘れることのできない宝物**となるはず。だからこそ、普段から相手の事を思い、**「ありがとう」という感謝の言葉**を、たくさん伝えられるといいですね。

クライマックスの式歌「春風の中で」の合唱…

♪ 今あなたと それぞれの道をいく まだ見えない 未来に向かい 一歩ずつ 一歩ずつ
今あなたに伝えたい「ありがとう」 ここまで 会えるその日まで 希望へと 続く道
歩いていく この場所から 歩いていく…♪ しつとりと締めくく、今年の3年生に相応しい素敵な合唱でした。